

った。

## 注

- 注1 「朝日新聞」朝刊 1998年1月28日
- 注2 「山村留学ガイド」自由国民社 P10～P11
- 注3 「山村留学ガイド」自由国民社 P12
- 注4 「山村留学」児童募集要項 仁田原小学校
- 注5 津野山村留学制度募集要項 津野小学校
- 注6 内野山村留学制度募集要項 内野小学校
- 注7 山村留学記念誌 仁田原小学校
- 注8 山村留学記念誌 津野小学校山村留学制度実施委員会
- 注9 児童の作文より
- 注10 山村留学記念誌 注8と同じ
- 注11 「西日本新聞」夕刊 紅皿 1999年7月26日

## 山村留学に関する調査研究 1 (牛島)

よ」ということにならないかと思って。

この1年間あなたの手紙には、少年野球の優しい監督さんのことやチームの仲間との結束を体で覚えたこと、運動会に参加して楽しかったことなどがつづられていました。そうそう神楽に挑戦したようですね。城原の消印がある便りは、お母さんの大切な宝物です。これからもあなたの信じる道を歩いてくださいね。あなたの歩き方で、一步一步ゆっくりと。(40歳母親)

山村留学制度についての新聞紙上での紹介やパンフレットなどは知っていたが、実際に山村留学を実施している学校に足を運び、留学生、在校生、校長先生をはじめ担当している先生方、里親の方々に面談してみると、この制度のすばらしさと同時に課題が明らかになった。

もともと留学生を受け入れる学校は人口が少なく、毎年里親として引き受けるにはあまりにも犠牲が大きい。受け入れた方々はやってよかったと評価をしているが、受け入れを決意するまでには、相当の苦労があったことが聞き取りの中から感じられる。

これは山村留学制度の本質的問題というより、受け入れ体制の問題である。この受け入れの問題を平成11年度からの仁田原小学校方式で乗り越えることができるなら、山村留学制度は、今後多くの学校で推進していけるだろう。山村留学のすばらしさについては、上記の母親の投書を見るまでもなく、山村留学制度の成果で一部記述した通り、ほとんどの留学生が「留学してよかった」と感想を述べていることから明らかである。また受け入れた学校においても、複式学級が解消され、在校生にも大きな変化が見られたことから判断すると、その成果は高く評価できる。

特に留学を継続して希望する児童が多いことが何よりの証明と言える。このような成果は大自然の四季折々の変化を肌で感じる中から、また村の人々の人情から子供達が感受するものであろう。

この山村留学制度を一つの契機として、学校、保護者、地域が一体となり、子供の教育に全力を注いでいる姿に接した時に、教育の原点を見る思いであ

山村留学の本来の目的は留学生に自然体験を通して自然の美しさや神秘性、厳しさなどに触れさせることにより、感動や驚きを味わわせると共に自然や環境への理解を深めたり、児童が共に学び、刺激しあうことにより、学校、地域の活性化と活力ある地域づくりをめざすことが主なものであった。

平成11年度から仁田原小学校で実施しているホームステイ（里親）を組みこんだ留学生センター方式は、異年齢でしかも男女が一つの屋根の下で一緒に生活することにより、少子化の中で経験することのできなかつた生活体験や共同生活を通して、より一層の思いやり、自主性、協調性、忍耐力、社会性などを養うのに非常に適していることが感じとられる。その生活の中にはお互いの中で摩擦が生じ、対立、争いがあることは当然であるが、その生活の中で子供達はたくましく成長している姿を十分に感じとることができた。この方式は山村留学の本来の目的、意義に沿った活動はもちろん、安定的な運営が期待でき、課題解決の方途として推奨したい。

## おわりに

山村留学に出している母親が西日本新聞の紅血欄に次のような投書をされている。<sup>(註11)</sup>

### 山村留学中の息子へ

10歳になったばかりのあなたが大分県竹田市へ山村留学して、もう2年目の夏が来ました。元気ですか。竹田市は、さわーっと緑の風が泳ぎ、清流がこんこんとわき出る里、何よりも人々の笑顔がとても美しい自然ですね。昨年3月、初めて竹田市の城原小学校を訪ねましたね。その時すでにあなたの決意は固く、「僕、ここに来るよ」とひとりっ子のあなたがあまり強く宣言するので、お父さんもお母さんも正直とまどっていたのよ。途中で「戻りたい

を継続する上で貴重な実践と思われるので、具体的に紹介してみたい。

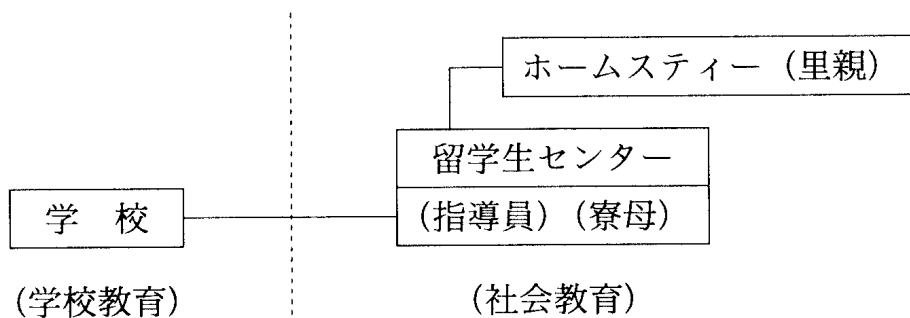
※ 山村留学の課題解決に向けて（仁田原小学校）

今までの仁田原小学校における山村留学の型は次の通りである。



この方式は山村留学の多くの学校で実施している方式であり里親が留学生を受け入れ、学校に通わせる方式である。地域活性化型であるが、受け入れ里親に限りがあり、里親が減少する傾向が見られる。即ち、里親の確保に非常に苦勞しているのが実情である。

このように1年間留学生を引き受けることが困難なため、仁田原小学校においては、平成11年度から次のような方式で出発し、10名の留学生を受け入れ、地域からも好評を得ている。



この方式は留学生センターに常駐する指導員による意図的、計画的な自然体験、生活体験が可能で、生活指導の充実も期待できる。さらにホームステイ（里親）を組み込むことによって、地元に着した地域住民との交流が期待できる。1ヶ月のうちに20日～25日は留学生センターにおいて指導員の計画で集団生活や生活体験、自然体験などを行ない、残りの5～6日間（主に土曜日、日曜日）はホームステイ（里親）先で生活し、里親と一緒に地域との交流を行っている。里親も月に5～6回のホームステイであれば全く負担にならず、留学生が宿泊に来る日を楽しみにしているのが実情である。

てきた。今までは、お互いの性格などわかりすぎるくらいわかり児童間で序列が生じ、ある児童がすることは認められても、ある児童は認められない。友達によって言葉使いが違うなど、いろいろな問題があったが、留学生が加わったことで、単に新しい友達が増えたということだけでなく、留学生がどの子とも同じように接していく態度を見て津野の児童が何かを感じている様子がよくわかる。(津野小)

このように留学生、在校生、保護者、里親、教師のいずれの面から見てもすばらしい成果が見られる。特に津野小学校においては、継続する留学生が多く相当の魅力を感じていると言える。何はともあれ、それぞれの学校を訪問してみると学校の教師、村の人々が、心から留学生を歓迎していることを肌で感じることができる。また感想文でも理解できるように共通して言えることは感謝の気持があふれていることである。この気持が留学生、在校生共に及ぼした大きな成果と言えるであろう。

### 第三章 山村留学の課題と解決の方途

仁田原小学校、津野小学校共に共通している課題は、留学生を受け入れる体制（里親）の問題である。もともと住民が少ない中で里親を募るために、同じ家庭に何回も受け入れることになり、やはり負担になっている。現実には山村留学制度実施委員会の方々の家で引き受けざるを得ない実態がある。

今後、山村留学制度を続けていく上でどうしても解決しなければならない最大の課題と言える。

津野小学校においては、発足当時からの方々の熱意と町営住宅の建設による留学生の増加など例年5～9名の留学生を引き受けているが、仁田原小学校においては里親の高齢化等により多数の留学希望者を受け入れることが困難になってきた。そこで平成11年度から里親制度を加味したセンター方式を採用することで課題解決に向けて大きく前進している。今後、山村留学制度

最初は子供達なりに留学生を観察しているが、次第に自分達の中で序列をつけ、集団を形成し、認めていく姿が十分に理解できる。遊びや学習時間の中で留学生がどのように行動するかを見ていくうちに、今までの自分達の行動概念とちがうものを知り在校生なりの幅を広げている。

⑤ 学校の教師から見た成果 (・・・筆者)

仁田原小学校、津野小学校共に学校長をはじめ、多くの担任教諭から感想を聞くことができた。

- 保育所から同一メンバーで過し、固定化、序列化した人間関係が留学生との交流の中で、見方、考え方、感じ方、行動の仕方など、いろいろな面で変容していく様子がよくわかる。(仁田原小)
- 山村生活に徐々に慣れてきた留学生は本校の児童と一緒に生活する中で、仲良くすることの大切さ、自然との触れあいの楽しさを味わいながらたくましく成長した。(仁田原小)
- 教師が留学生の個性や能力などの良さを見るにつけ、在校生の良さも見えるようになった。このような幅広い視野から教育活動ができるようになったことはうれしい。最初学校に来た時は人を非常に警戒していたが、山村の空気にすぐとけこみ目が輝くようになった。自然の力か児童お互いの力なのかは断定できないが留学生、在校生共に変わっていくのがよくわかる。(仁田原小)
- 起床時間が早くなった為か、最初は非常に困っていたようだが、身支度や朝食のとり方がきちんとできるようになってきた。毎日3～5kmの道のりを歩いて登校するため、食事抜きでは体がもたない。必然的に三度の食事をきちんと食べるようになり自然に体が鍛えられ病気もしなくなった。(津野小)
- 里親のもとで津野の児童と共に生活している為、宿題や手伝いを一緒にするようになり、両方にプラスになっている。(津野小)
- 友人関係の固定化をあたりまえと思っていた在校生が次第に変わっ

里親になることを決断するまでは困惑した気分であったが、留学生と共に過す中で自分自身の変容している様子をよく書いておられる。里親が肩の力を抜き、力みがとれた時に子育ての原点を再認識したことを、また我が子と共に成長する姿を見てその喜びを十分に表現しておられる。何よりもこの経験に対する感謝の気持ちがすばらしいと言える。

#### ④ 在校生の感想

在校生の感想については、仁田原小学校は児童の感想文という形で知ることができた。

##### ○ 4年生女子

友美さんが来て、私達の学級は急に明るくなった。はじめはめずらしかったけど、すぐ慣れて友達になった。都会の人と会ったのははじめてでうれしかった。

##### ○ 4年生男子

友美さんは1年間よその家で暮せるなんて勇気があってすごいね。一人で来た時はさみしくなかった？ ドッチボールが上手でしたね。2学期からは発表するようになりましたね。僕は友美さんがどんな発表するか楽しみに見ていました。発表する時すごいなあーと思いました。

##### ○ 5年生男子

僕は佳奈さんが留学してきてとてもよかったと思います。まず学級の人数も増え、学級の様子が変わってきました。佳奈さんが算数の勉強の仕方やドリルの仕方などを教えてくれてとても良かったです。佳奈さんは今まで僕が知らなかったことを沢山教えてくれました。仲良く過ごせたことも良かったです。僕達のことを忘れないでね。

津野小学校については直接児童と会話する中で児童の発言の中から子供なりの感想が聞けた。

ました。そうこうしているうちに毎日の生活のリズムも出てきました。

初めの頃は御両親に会う度にまた別れる度に大きな目から大粒の涙が出ていましたが、秋頃になると御両親とバイバイと手を振って別れるようになり、だんだんとあっさりとしたものになり、逆に御両親の方がちょっと寂しがっておられました。2年目も継続して留学することになり、自分自身で心を開き、自分の位置をきめて、逞しく成長した姿を見て、非常にうれしく思います。（中略）留学生のお子さんが津野に来たことで四季折々の自然に触れながら過したことが、これからの人生の中で良い思い出としてプラスになったとだけ思っていれば里親としてうれしい限りです。

○ 津野小学校で5年生男子を受け入れた里親の感想

きっかけは、当時2年生だった娘の「複式になりたくない」の言葉からです。里親を希望してからの私達の家族は留学生を迎えるまでも緊張していました。我が家に迎える留学生はとても偏食がひどい子供と聞いて、ますます私の不安は高まるばかりでした。ところが実際に来てみると都会育ちの留学生は田舎の水、米、採れたての野菜がテーブルに出るのが、何よりもごちそうのようでした。心配していた偏食もしなくなりました。春には野いちご採り、夏には川遊び、秋には栗拾い、冬には雪遊びと四季折々の変化にとっても喜びを感じてくれました。当り前に生活していた私たちはお金で買うことのできない自然の素晴らしさに改めて感動してしまいました。里親が縁で当時5年生だった息子は留学生の住んでいる小倉に遊びに行き、田舎と違った楽しさを経験できたようすです。田舎と都会のおもしろさをお互いに感じるものがあるようで、今も子供同士で行ったりきたりしています。2年間里親をさせていただきましたが、過ぎてしまえば、私達こそがすばらしい体験をさせていただいたことがよくわかります。留学生が大人になって津野に来てくれた時どんな思い出話しになるかと今からとても楽しみです。



子供達を送り出して、はたしてうまくやっていけるかどうかという親の不安、それを乗り越えて自然の中で、また愛情深い村の人々や先生、里親の方々にかこまれて、立派に留学生活を送っている子供の様子を知った時の喜び、たくましく成長していく我が子を見た時の親の喜びが素直に書かれている。また親子別々に生活してみても知る親子のあり方、里親、先生方、村の人々に対する感謝の気持など親としての気持がよく伝わっている。

### ③ 里親の感想

#### ○ 仁田原小学校で4年、5年生女子2人を受け入れた里親の感想

学校や村の活性化のために里親を引き受けてくれないかと依頼された時はどうしたものかと困惑した。

我が子の子育てが一段落して何となく意欲も体力も衰えたような気がして、1年間が無事に終ることのみを考えていた。そこで思いきって2人の里親になることを決意して引き受けることにした。自分の子供と違って、それは気を使った。しかしある時、こんなに気を使っていては自分の体がもたないと思い始めた。たった2人の女の子にふりまわされている自分に気づいた。肩の力を抜いて接することができるようになると子供がよく見えるようになった。家の中にいつも子供の声がする賑やかさが“元気のエキス”だったろうか。私も家族もいつの間にか、また子育てのあのころの気分を味わっていた。里親は大変だけど経験した人は皆いろいろな意味で「よい勉強させてもらった」という。私もそんな言葉を素直にかみしめているところである。

#### ○ 津野小学校で3年生男子を受け入れた里親の感想<sup>(注10)</sup>

留学生は自分の子供と同じように接し、同じ事をさせて同じように叱るなどと考えていました。それでも最初は何となくぎこちないことばかりでお互いに気を使っていました。しかし下の子が留学生と同級生ということもあって、子供同士で話したり遊んだり宿題をしたりしているうちに家族の者ともよく話すようになり、少しずつなじんでき

人が教えないまま育っていってしまう子がたくさんいるように思えます。親が子のために何でもしてあげるのが当たり前になっている今、離れて生活してみると、親として子のためにあるべき立場を再認識させられます。

離れて子供を眺められたこと、里親さんに第三者としての意見を聞いたこと。親として大人として学ぶものが多い山村留学でした。先生方と里親さん、地域の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。また来年もよろしくお願ひします。

○ 津野小学校4年生男子の母親

親馬鹿ながら息子の拓矢は学習面、生活面、運動面すべてにおいて、そう心配しなくてもいいと思っていました。性格もよく、気はつくし、優しい子でした。でもカンシャクを出すところだけは早くなおさなければと思っていました。親せきのすすめで津野の山や川、北九州では決して経験することのできない自然を思いきり感じることは、拓矢にとってこの上ない素晴らしい体験になると思い山村留学を決めました。本当に様々な経験をさせていただきました。淋しくて、辛くて拓矢に会いたくて、何度涙を流したことか。山村留学に出した親として、どう対処すべきかずいぶん迷ったりもしました。あまり行くのもよくないし、行かないのもよくないのではないか。拓矢に対して私は何ができるのか。迷いの連続でした。

それでも会うたびに顔がひきしまり、たくましくなっていく我が子が眩しく感じています。気になる性格(カンシャク)もずいぶん良くなりました。2年目も行きたいと言うくらい津野が好きになったようです。親としては嬉しいような淋しいような複雑な気持ちです。

拓矢にとってこの2年間の経験は宝物になることでしょう。自信にもつながることでしょう。第2の故郷ができたような気持ちです。この原稿を書き終った時までは、拓矢の留学は2年間で終る予定でしたが拓矢の「もう一年津野に残りたい」という思いに負けて、3年目もお世話になることになりました。来年もよろしくお願ひします。

留学は親にとっても子供にとっても、かけがえのないすばらしい体験でした。この思い出は生涯忘れないでしょう。

○ 仁田原小学校5年生女子の父親

「星野村！心に残る思い出ありがとう」。「やっぴいけるかなあ」と心配しながら送り出して早いものでもう一年が過ぎようとしています。お友達や先生方をはじめ地域の方々のおかげで楽しく心に残る山村留学となりました。星野村の皆様の温いご支援ありがとうございます。どれだけお礼を言っても過ぎることはありません。

娘にとって四季折々の自然や新しい友人との出会い、ヤマメ取り、お茶つみなどの体験は生涯の思い出になり、第二の古里になったことでしょう。私も娘のがんばりを見直すよい機会をいただきました。また親子、地域、全校児童が一体となった運動会は心温まるものでした。

澄んだ星空や初夏の蛍、あのきれいな星野川での川遊びは心をなごませてくれました。最後になりましたが里親の西田さんには娘の健康や精神面まで誠心誠意ご配慮いただきありがとうございます。

○ 津野小学校5年生男子の父親

津野山村留学に子供を出して一年が過ぎました。親元に子供がいない寂しさを味わいながら、自然のすばらしさを満喫している子供の様子を見てきました。北九州では水泳もスイミングスクールに通って泳げるのが当たり前、勉強も4年生から塾に通う子もいて100点とるのが当たり前、100点とってもそれ程目立つことはないのです。それが、津野では、ちょっとしたことがみんなの注目を浴びる。ちょっとしたヒーロー気分させてもらえる。40人の中では目立たないことも12分の1になると先生もしっかり見て下さるし、みんなも見してくれる。そして反応もすぐかえってくる。(中略) 都会では物もいっぱいあり、人もたくさんいるのですが、何となくいつも満たされていませんでした。自分の思っていることが伝えられないもどかしさを持ち続け、わかってくれようとしないうちの周りに対して「キレる」日が来てしまうのではないのでしょうか。伝える手段を大

生だし、中学進学のこともあるので絶対帰らなければいけない」と言いました。

僕は「残してね、残りたいよ」と何度も言いましたが、お母さんの答えは「ダメ」でした。しかし僕はその後何度もお願いしました。そしてついに「拓矢の熱意に負けた」と言って、3年目の留学を許可してくれました。お母さんに感謝しています。

この留学生の感想から、自然との触れあいのすばらしさを感じている様子がよくわかる。ヤマメ取り、茶つき、稲刈り、竹の子掘りなどの直接体験から得たものや、川の美しさ、人と人との触れあいなど大自然の中における出会いの大切さなど小学生なりに綴っているのがよく理解できる。この作文を読んでいると行間に見えかくれする子供の心の動きが見えるようである。特に最後に掲載している津野小学校の拓矢君の作文で3年目をお母さんをお願いする文章は心に残り、留学生の満たされた心が読みとれる。

## ② 留学生の親の感想（・・・筆者）

### ○ 仁田原小学校4年生女子の母親

星野村に子供を留学させて1年になろうとしています。最初はホームシックで涙を流してばかりでした。山村留学の話をもっと早く持ってきたのは私でしたが、私もさみしくて最初は泣いてばかりでした。うまくやっているだろうか。一人っ子でわがままばかり言っていないだろうか。友達と仲良くやれているだろうか。里親の方にはご迷惑をかけてはいないだろうかなどいろいろ悩んでいました。

でもお茶つき、ヤマメ取りと楽しい行事があり落ちついて過している様子がわかり安心しました。そして里親をはじめ星野村の方々の温い気持ちと愛情に包まれて過ぎようとしています。里親の方々や近所の子供さん達と一緒に遊んでいただいたことを目を輝かして、話しております。(中略)これから先どのように変わるかわかりませんが、今回の山村

ろとは知りませんでした。

もちろん北九州にもいいことがあります。それは物を買う場所がたくさんあります。例えば文房具店、釣具店などです。だからどちらがいいとは言えませんが、とにかく津野はいいところです。だから僕はもう一年津野に残りたいです。

○ (津野小学校3年生男子)

僕は津野小学校に来てはじめて「稲刈り」をしました。今まで一度もしたことがなかったので少し不安でした。稲を刈っていると教頭先生が「刈るのが早くて上手ね」と言われました。僕が「稲刈りははじめてです」と言ったら「手つきがとってもいいよ」とほめてくださいました。その時はとてもうれしかったです。3月にはこの米でおもちをつくそうです。

○ (津野小学校4年生男子)

この津野に来るようになったのは、親せきのおじさんの家に遊びに行った時のことでした。「津野っていう田舎に行ってみん？ おもしろいよ、多分」この言葉を聞いて僕は津野に山村留学することにしました。3月下旬、僕は山村留学の手続きのために津野に行きましたが、お母さんが手続きをしている間、胸がドキドキしていました。

4月5日に始業式がありました。僕の自己紹介が終るとクラスの友達の「よっしゃ、やったあー」という声が聞こえました。この声に僕はホッとしました。その後友達はどんどんふえ、田植えや竹の子掘りをするやら毎日が楽しくて仕方がありませんでした。あっという間に1年が終わりました。僕はどうしてもあと1年続けたかったのでお母さんに「もう1年いてもいい？」と聞いたら「行きたいなら行ってもいいよ」と言いました。2年目の山村留学が決定しました。平成9年には5年生の教室に新しい山村留學生が来ました。その名は衛藤空くんです。同じ留學生ということで衛藤くんとも仲良しになり昨年よりも、もっと楽しい1年間でした。

僕が「このまま来年も残りたい」と言うと、お母さんが「来年は6年

## 山村留学に関する調査研究1 (牛島)

村の行事で楽しかったのは、「鬼火たき」です。鬼が山から来るのですが、こわくてこわくて隠れてばかりいました。それに夏は冷たい、きれいな川で川遊びをしたり、カニや魚をとったり、石積み遊びをしました。星野川の美しさは、いつまでもいつまでも心に残るでしょう。

冬は雪遊びです。星野村では大雪が降り、先生や全校児童で雪合戦をしました。思いきり遊んだ後は気持ちがよかったです。

山村留学に来て良かったことは、家族の大切さがわかったことです。お世話になった里親の方はみんないい人でした。家族のあたたかさを感じました。また実家の父や母のことも思い出しました。山村留学に来てほんとうによかったです。

### ○ (津野小学校5年生男子)

僕は津野小学校に山村留学してとてもよかったです。まわりが山々に囲まれ、秋になるとその山の木々の色が変わり、山に模様ができていくことに気づきました。赤や黄色に変わった木々の1本1本がきれいで、あの景色は忘れられないほど強く心に残っています。そんな景色をよく目にしていたからか、視力も上りました。また空気もおいしいと感じるようになりました。楽しいこともいっぱいありました。初めて体験した「田植え」「稲刈り」「釣り」「茶つみ」「竹の子掘り」「武者行列」「たこあげ」などどれも忘れられない思い出です。

### ○ (津野小学校5年生男子)

僕は津野小学校に来てとてもよかったです。それは津野の人達はみんないい人だし、それに自然が多いからです。1年中遊びに困ったことはありません。春にはつくしやわらびが採れるし、夏は川遊び、昆虫採集に行っても見ないような大きな自然のクワガタを採ったりもできます。秋にはくりやあけびが食べられるし、冬にはみんなで雪合戦ができます。僕の住む北九州では外で遊ぶところがなく、家でゲームをしたり、ゲームセンターに行ったりばかりしていました。時々友達と神社に行くと時間をつぶすこともありました。こんなに自然がおもしろいとこ

#### 4. 山村留学の成果

山村留学については、多くの成果が得られているが、ここでは留学生、留学生の親、在校生、留学生を引き受けた学校の教師の感想、意見を中心に記載する。

留学生、在校生については感想文をできるだけ原文にそって記載し、子供なりの情感をそのまま理解したい。なお教師、親については感想文、聞き取りを中心にまとめてみた。<sup>(註9)</sup> (文中の・・・は筆者)

##### ① 留学生の感想

###### ○ (仁田原小学校4年生女子)

4月に私は山村留学に来ました。はじめて親元を離れとてもさみしかったです。でもみんなの名前や顔をおぼえてから安心しました。5月にはヤマメのつかみ取りがありました。とても楽しかったです。仁田原小学校では、こんなに楽しいことがいっぱいあるのだなあと思いました。10月には運動会がありました。1年2年生がダルマをかぶってする競技などは経験したことがなくとてもめずらしかったです。また紅白のリレーは人数が少ないため1年生から6年生までみんなでバトンタッチをしてとても楽しかったです。(中略)

学校は休み時間になると全員運動場に出てサッカーやドッチボールをしてみんなで遊びます。もとの学校では教室で遊んでいたの、このようにみんなまで遊ぶのは非常に楽しいです。勉強では聖平君や央也君がよく発表するのを見てすごいなあと思いました。みんなもよく発表します。この学校は何でも発表していいのだなあーと思いました。また来年も続けたいです。

###### ○ (仁田原小学校5年生女子)

水城小学校から仁田原小学校に来て、一番楽しかったことは、ヤマメのつかみ取りです。ヤマメを手でつかむのは最初は気持がわるかったけど、やり始めると夢中になってしまった。ヤマメがぬるぬるするとは知りませんでした。

## 山村留学に関する調査研究1（牛島）

いることが伺える。山村留学実施委員会の方々にお会いして、この村と学校を愛する気持ちが強く伝わり、何とかして、この学校を活性化したという熱意が感じとれる。このことは山村留学を継続する上で特に大切であることがわかる。

### オ. 年間の主な行事

月	学校行事	P T A・町の行事	その他の行事
4	歓迎遠足, 家庭訪問	総会, 実親・里親紹介	
5	竹の子ほり, 茶摘み, 田植え	陸上記録会	
6		研究視察	
7	学期末懇談会 校内水泳大会	球技大会	
8		除草作業, 遊具の補修, 水泳記録会, ドーム見 学	山村イベント 「ふれあいイン津野」
9	津野小・中・地域合	同運動会	奉納相撲
10	稲刈り	ふるさと祭・武者行列	
11	鍛練遠足, 球技会, マラソン大会	教育講演会 町音楽発表会	
12	学期末懇談会		
1		給食試食会 たこあげ・カルタ会	
2	学芸会		しいたけコマ打ち, 次年度留学希望者面接
3	学年末懇談会, 餅つき 大会, お別れ会食会		

### ③ 筑穂町立内野小学校

内野小学校においては、平成10年度に開始されたばかりであり、北九州市から3年生女子、5年生男子各1名、大野城市から3年生男子1名の計3名が留学したが、まだ留学したばかりで詳細な資料が整理されておらず今回は前記2校の詳述にとどめる。



(いじめとは関係ない)

○ 3年生の父親

新聞等で山村留学は知っていた。小さい頃から外遊びをさせ仲間とのかかわりを大切にしていた。しかし小学校に行くようになると近所の子供との遊びが極端に少なくなり、外遊びも減少してきた。そこで思いきって山村留学をし、自然の中で自由に遊べる時間をつくってやりたいと思い留学させることにした。

○ 5年生の母親

少しわがままな性格であったのと自然の中で過すことを本人が強く希望したため思いきって留学させた。

津野小学校においても、仁田原小学校に留学させた親と同じく、自然の中における豊かな経験を重視していることがよくわかる。

エ. 津野小学校において留学生を里親として受け入れた動機

- 留学生の発起人であり、その責務上もきっかけとなるが、本質的には地域の活性化を進めるうえでは、地域の中心的役割である学校の盛衰が大きく左右することを考えることとあわせて子供達の育つ場所づくりは大人の責任であると考え、積極的に受け入れようとした。
- 山村留学委員会の委員の方々の一生懸命な努力があっていたので、私にも何かができるならと思って引き受けた。
- 地域の活性化と少子化が進む中で複式学級の解消を図りたかった。
- 3月末のクラス編成をぎりぎりの中で、4年生、5年生は複式学級を免れた。2年生、3年生も何とか複式学級を解消することができると思った。もう一つは自分の子供と同級生ということで引き受けた。

ここでは、地域の活性化と複式学級の解消ということが非常に強く働いて

## 山村留学に関する調査研究 1 (牛島)

## イ. 児童数の推移

年度		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計( )は留学児	
平成4	平	男	3	3	7	3	6(2)	9	31(2)
	成	女	6	4	6	6(1)	4	4	30(1)
	計	9	7	13	9(1)	10(2)	13	61(3)	
平成5	平	男	3	4(1)	4(1)	7	5(2)	5(1)	28(5)
	成	女	6(1)	7(1)	4	6	6(2)	4	33(4)
	計	9(1)	11(2)	8(1)	13	11(4)	9	61(9)	
平成6	平	男	1	3	3	6(3)	8	3	24(3)
	成	女	3	6(1)	7(1)	4	7(2)	5	32(4)
	計	4	9(1)	10(1)	10(3)	15(2)	8	56(7)	
平成7	平	男	7	1	4(1)	3(1)	5	8(2)	28(4)
	成	女	5	3	6(1)	7(1)	4(1)	8(2)	33(5)
	計	12	4	10(2)	10(2)	9(1)	16(4)	61(9)	
平成8	平	男	2	9	2(1)	6(2)	2	6(1)	27(4)
	成	女	2	5	3	6(1)	7(1)	5(1)	28(3)
	計	4	14	5(1)	12(3)	9(1)	11(2)	55(7)	
平成9	平	男	3	2	10(2)	2	6(2)	3(1)	26(5)
	成	女	4	2	5	3	6(1)	6	26(1)
	計	7	4	15(2)	5	12(3)	9(1)	52(6)	
平成10	平	男	2	3	3(1)	8	2	7(3)	25(4)
	成	女	4	4	2	5	3	6(1)	24(1)
	計	6	7	5(1)	13	5	13(4)	49(5)	
平成11	平	男	2	3	4(1)	4(2)	9(1)	4(2)	26(6)
	成	女	1	4	4(1)	3	5	3	20(1)
	計	3	7	8(2)	7(2)	14(1)	7(2)	46(7)	

ウ. 津野小学校に山村留学をさせた親の動機<sup>(注8)</sup>

## ○ 5年生の母親

数年前から山村留学には興味を持っていましたが、直接のきっかけは学級の子供達との人間関係がうまくいかず、本人自身が留学を強く希望したので、この際留学を考えた。

この表には、育てる会、学校行事、P・T・Aや村が行う行事が毎月ごとに計画されているが、このような行事を通して行なわれるふれあいと共に、四季折々に変化していく豊かな自然の中における友人や村人との交流が子供達の成長にとって貴重なものであると言える。

## ② 添田町立津野小学校

### ア. 山村留学制度のこれまでの経緯

平成2年度に複式学級解消の方策について話し合いが始まる。また、校区内外在住の津野小学校卒業生へのアンケート調査などを行い意識を確認する。また山村留学の先進校に視察に行き山村留学に向けての計画を検討する。平成3年度は山村留学制度実施委員会を設定し、実施委員会発足と共に添田町当局と折衝を行い、里親方式で行うことを決め、実施の方向で意志決定を行う。年度ごとの留学児童数は次の通りである。

(——線筆者)

津野小学校においては、山村留学実施の平成4年度から毎年、平均した留学生が在籍していることがわかる。これは山村留学制度を実施するに当たり、地域、保護者の十分な論議がなされ、関係者の熱意が脈々と伝わっていることを強く感じた。

## 山村留学に関する調査研究1（牛島）

## オ. 主な年間行事

月	育てる会行事	学校行事	P T A・村の行事
4	山村留学児童歓迎会 里親会	入学式 歓迎遠足・修学旅行	P T A総会
5	留学児童帰省*連休 茶摘み体験・里親会・ 九州山留協総会（佐賀・やまぼと山村塾）	茶摘み体験学習 栽培活動 やまめ取り大会	
6	里親会	プール開き・朗読会・ 揮毫会・ふるさと体験	村の道路愛護
7	山村留学学習会・ ふるさと交流キャン プ・留学児童帰省	学期末懇談会・村内 親善水泳大会・七夕 祭・終業式	救急法講習会・村民 球技大会・三坂神社 祇園祭（鬼）
8	九州山村留学連絡協 議会交流会（鹿児島 ・金山小学校）	出校日 愛校作業	村仲良しキャンプ 廃品回収 平和祈念式典
9	里親会・星を観る会 ホームステイ	始業式・プール納会 夏休み作品展	池の山祭 池の山剣道大会
10	里親会・ホームステイ	運動会・揮毫会	村民運動会
11	里親募集 里親会 ホームステイ	ふるさと体験学習 校内朗読会	ふれあい学級・星の まつり・和太鼓フェ スティバル
12	山村留学募集開始 ホームステイ・留学 児童帰省・里親会	校外探検 学期末学級懇談会 終業式	家庭教育学級
1	留学児童帰村 ホームステイ 里親会	始業式・給食祭り 持久走大会 スケート教室	鬼火たき 廃品回収
2	山村留学説明会 里親会 留学児・里親決定	全校音楽 映写会 なわとび大会	村民駅伝大会 少年剣道大会
3	留学児童お別れ会 11年度留学に伴い 諸手続き	6年生を送る会 学年末学級懇談会 卒業式・終業式	

#### ウ. 仁田原小学校に山村留学させた親の動機

多くの意見が寄せられているが、そのいくつかを紹介する。<sup>(註7)</sup>

##### ○ 5年生の父親

本人の強い希望が第一です。私としては本人が希望しているので、この機会に「山を守っている人達の努力がいかにかに貴いか、また環境を考える時、山から海までを考えられるような、何事もグローバルな視点から考えることの大切さを培ってほしい」と思っています。

##### ○ 4年生の母親

過保護に育ててしまい、親離れ子離れのいい機会になればと思います。子供には、いろいろな冒険をして心の豊かな大人になってほしいと思います。また、自分を見つめ、自分に自信をもってほしいと思い留学させることにした。

##### ○ 6年生の父親

豊かな自然の中で日頃体験できないすばらしい体験を思いきりさせたいと思ったから。

このように多くの親が自然の中における星野村での豊かな体験を強く希望していることがよく理解できる。

#### エ. 仁田原小学校において留学生を里親として受け入れた動機

これについては2人親から聞きとりであるが、次のような意見が聞かれた。

- 地域の活性化のために役立ちたかった。また子供が大好きだから。
- 子供達が保育園から現在まで全く変化がなく、何をするにしても、序列が決まっていて、ややあきらめムードがあるから変化を期待して引き受けた。自分の家に同年齢の子供がいたとも理由の一つである。

里親との会話の中から、里親は地域の活性化と子供達の生活に対して、変化を求める気持が強いことを感じた。

## 山村留学に関する調査研究1 (牛島)

## イ. 児童数の推移

年度		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計( )は留学児	
平成2	平	男	2	4	2(1)	6(1)	6(1)	9(3)	30(6)
	成	女	1	4	1(1)	4(1)	6(4)	7	27(6)
		計	3	8	3(2)	10(2)	12(5)	16(3)	57(12)
平成3	平	男	4	2	5(1)	4(2)	7(3)	6	28(6)
	成	女	2	1	5(1)	6(1)	5(1)	1	20(3)
		計	6	3	10(2)	10(3)	12(4)	7	48(9)
平成4	平	男	3	5(1)	2	4	2	4	20(1)
	成	女	2	1	1	5(1)	4	5(1)	18(2)
		計	5	6(1)	3	9(1)	6	9(1)	38(3)
平成5	平	男	6	3	4	3(1)	4	2	22(1)
	成	女	4	2	0	1	5(1)	3	15(1)
		計	10	5	4	4(1)	9(1)	5	37(2)
平成6	平	男	7	6	3	4	3(1)	4	27(1)
	成	女	0	4	2	0	2(1)	6(2)	14(3)
		計	7	10	5	4	5(2)	10(2)	41(4)
平成7	平	男	4	7	7(1)	3	5(1)	2	28(2)
	成	女	1	0	4	2	0	1	8
		計	5	7	11	5	5(1)	3	36(2)
平成8	平	男	3	4	8(1)	7(1)	3	4	29(2)
	成	女	9	1	0	4(1)	2	0	16(1)
		計	12	5	8(1)	11(2)	5	4	45(3)
平成9	平	男	0	3	4	7	6	3	23
	成	女	3	9	1	1(1)	4(1)	2	20(2)
		計	3	12	5	8(1)	10(1)	5	43(2)
平成10	平	男	3	0	4(1)	5(1)	7	6	25(2)
	成	女	5	3	9	1	1(1)	4(1)	23(2)
		計	8	3	12	5	7	9	48(4)
平成11	平	男	3	3	2(1)	3	5(3)	9(2)	26(6)
	成	女	3	5	4(2)	9(1)	4(1)	0	24(4)
		計	6	8	6(3)	12(1)	9(4)	9(2)	50(10)

### 3. 各学校の実態

#### ① 星野村立仁田原小学校

##### ア. 山村留学制度のこれまでの経緯

平成元年に山村留学制度準備委員会を設置。先進校視察や学習会を重ね、保護者や地域住民の理解を得ることにより、校区民挙げての協力のもとに、山村留学児童を受けていく体制づくりが確立された。

##### ○ 平成2年度（民営によるセンター方式）

星野自然の家（民営）が地域住民の協力により旧家を改善して設立される。異年齢の子供たちが共同生活することによって、助け合いの心を一層深め、個性を伸ばす教育を受けられる「センター方式」で発足。

福岡市、北九州市などから12名の留学生が入塾し「星野自然の家」を生活の基盤として、3 km離れた仁田原小学校に通学する方式でスタートした。

##### ○ 平成3年度（センター方式）

福岡市、熊本市などから9名入塾。

##### ○ 平成4年度（里親方式）

「星野自然の家」塾長の事情と留学生の親の要望により、センター方式から里親制度に変更し存続した。その後1998年まで里親制度で実施しているが、1999年度から里親制を加味したセンター方式（後述）に変更している。

平成2年からの留学児童数は次の通りである。

山村留学に関する調査研究1（牛島）

とを期待して、この制度を設けました。<sup>(注6)</sup>（——線筆者）

以上の各小学校における留学制度導入の目的をみると次のような共通することが見える。

- ・ 留学生に対しては、豊かな自然に直接触れ、体験することで自然の厳しさと豊かな恵みを体感させる。
- ・ 在校生に対しては、新しい友との競い合いと助け合いの中から優しく、豊かな心と自ら道を開いていく逞しい心と体を育てる。
- ・ 地域全体が一体となって教育の振興と活性化を図る。

2. 三つの学校に共通する実態（平成10年度）

学校 項目	仁田原小学校	津野小学校	内野小学校
学年及び 募集人員	第3～6学年 各学年2～3名 程度	全学年 若干名	全学年 5名程度
期 間	1年間 ※希望により年 単位で延長を 認める	1年間 ※継続する場 合は毎年契約を 更改する	1年間 ※継続をする場 合は毎年契約 を更改する
費 用	・里親委託料 毎月5万円 ・学校負担金 每学期3万円	・里親委託料 毎月3万円 ・学校納入金 年間6万円	・里親委託料 毎月3万円 ・学校納入金 年間6万円

※仁田原小学校においては、センター方式から里親制度に変更する時に、里親の希望が少なく、委託料を高くした経緯がある。津野、内野については町からの補助金が里親に出されている。



## 第二章 福岡県の実態について

### 1. 留学制度を導入した目的

#### ① 星野村立仁田原小学校

仁田原小学校区民の協力により山村留学生を受け入れ、豊かな自然環境の中で本校区の教育、生活体験を通して星野村の良さを留学児童及び父母などに味合わせるとともに仁田原小学校の児童と留学児童の活性化と活力ある地域づくりを目指す。<sup>(注4)</sup>

#### ② 添田町立津野小学校

最近特に過密化した都市を中心に子供同士の遊びや集団生活経験の不足、遊びを通じた家事などの勤労体験学習の減少、さらには過熱化してきた受験教育の弊害が指摘されている。このような状況にある子供に対して、自主性、個性、自立心を育てるためには、自然に恵まれた心豊かな人間関係が保たれている農山村で勤労奉仕体験学習をしたり、地域の文化や行事や人と触れ合ったりすることが効果があると考えている。

津野地域の振興と活性化を図る一方、地区内や保護が里親となって目的の趣旨に賛同する各地の子供を受け入れ、豊かな自然の中でたくましい子供を育て、あわせて教育条件の振興、充実を目的とするものである。<sup>(注5)</sup>

#### ③ 筑穂町立 内野小学校

都市部の児童を内野小学校区内の家庭に受け入れて自分の肌で自然に触れ自分の体で自然の恵みと厳しさを体験させようとするのが内野山村留学制度です。

留学児童には都会で得られない豊かな自然体験と地域の人たちとの温かい心の触れ合いと助け合いを通して、また地元の児童には、新しい友達との競い合いと助け合いの中から、やさしく豊かな心と困難に立ち向かい、自ら道を切り開いていくたくましい心と体がともに育っていくこ

## 第一章 調査研究の手続き

### 1. 調査対象

福岡県内で山村留学を実施している下記の小学校

- ① 星野村立仁田原小学校  
八女郡星野村15880
- ② 添田町立津野小学校  
田川郡添田町大字津野5929
- ③ 筑穂町立内野小学校  
嘉穂郡筑穂町内野3537-1

### 2. 調査方法

- 対象校を訪問し、校長、教頭、教諭をはじめ直接山村留学に携わっている方々からの聞き取り調査
- 保護者や児童の感想文の分析

### 3. 調査日時

1998年10月～1999年9月

### 4. 調査の主な内容

- ① 学校に対して
  - ・ なぜ山村留学制度を実施しようと思ったか。
  - ・ 年間の学校行事は。
  - ・ 留学生を受け入れて、留学生及び在校生はどのように変化したか。  
(在校生, 留学生, 教師の感想)
  - ・ 留学生の親の感想は。
- ② 里親に対して
  - ・ なぜ里親を引きうけたか。
  - ・ 留学生はどのように変わったか。

す」<sup>(#2)</sup>

青木氏が指摘するように、都会の子供達が置かれている生活環境は大きな問題があると言える。幼少の頃から稽古ごとや学習塾に通い、息抜きとしてコンピューターゲームやテレビゲームなどという生活パターンの子供達が少なくないただろう。即ち自然や集団とのかかわりあいの中で培かわれる貴重な体験が極端に少なくなっていることは事実である。

しかし、これらの理由のみで本当に山村留学をさせるのだろうかという疑問が残る。親は何故小学生という心身共に不安定で援助を必要とする時期に自分の子供を他人に預けようと思うのか、また受け入れる側も責任が重すぎるのではないかなど疑問が残る。

この点について山村留学に参加を希望する子供の父母の動機として青木氏は前著の中で親の声を次のように挙げている。

- ・学業も健康状態もあまり心配のないこの時期にゆっくりと自然体験をさせたい。
- ・自然の中で生活することによって心や体を強くしたい。
- ・どうも最近我が子の様子（友人関係や行動）に心配だから環境をかえたい。
- ・受験勉強一辺倒である都会の学校に疑問を感じる。など<sup>(#3)</sup>

一方、山村留学を企画した過疎の学校においては、学校及び村の活性化、複式学級の解消などが主な理由になっている。

では実際に山村留学を実施している学校の実態はどのようなものか、この制度から得るもの、課題は何かを明らかにすることを目的に調査・研究を進めることにした。

今回は福岡県内で山村留学を実施している小学校を対象にして山村留学の実態を分析し、明らかにするために学校を直接訪問し、調査・研究をすすめた。その中でも特に山村留学をした児童及び在校生の変化、留学に出した親の感想、里親の考え方などを直接聞き取りや感想文、作文などから研究することにした。

# 山村留学に関する調査研究 1

——福岡県の実態を中心に——

牛 島 達 郎

## はじめに

最近、新聞紙上で山村留学という言葉をよく目にするようになった。1998年1月28日の朝日新聞は「山村留学生を新年度も募集——自然と触れ合い学ぼう——」<sup>(#1)</sup>という見出しで大きく掲載し、過疎が進む地区の住民と学校が一体となり地域文化の中心となる学校を絶やすまいと始められたこと。また都会にない自然との触れ合いを通して、思いやりとたくましさを育むユニークな教育であることなどが紹介されている。

山村留学とは一体どのようなものだろうか。いろいろな考え方があろうが、この制度を発案した青木孝安氏は「山村留学ガイド」の中で次のように述べている。「山村留学は昭和51年にスタートしました。私の長野県八坂村を活動の拠点として行った短期自然活動に併せて長期の活動を取り入れたことに端を発します。豊富な情報量と積極的な表現意欲をもった都会の子供と地味で口数が少なく黙々と実行し、親しみ深い心を持った山村の子供が共に遊べば、お互いに分ち合うものが大きいはずだと思いました。今日の都市化社会の子供は好ましくない社会環境に囲まれています。そこから一時引き離して自然との対話の中で過ごさせてやりたいと思うのです。(中略)時には数人ずつ分かれて農家に宿泊し家族労働の体験をしたり、村の行事や祭りに参加します。子供達は村人の暖かい心に触れてほのぼのとした幸せを実感するはずで